



どんな学校？

課程：全日制 普通科

勉強、部活動、学校行事と、何事にも全力で取り組み「文武両道・切磋琢磨」をモットーに掲げ、生徒全員が主役となり、共に高め合う日々を送っています。SSH指定校としてAI時代に負けない科学的探究力と国際性を備えた次世代リーダーの育成を目指しています。



どんなメンバー？

学校 学校運営協議会
高大連携部会

地域 学校運営協議会委員
(兼高大連携部会委員)



どんな団体？

○学校運営協議会
コミュニティ・スクール指定校に設置する機関。校長と地域住民等が熟議を行い、その結果をよりよい学校運営に生かす。

○高大連携部会
学校運営協議会の下部組織であり、各学校の課題に応じて設置することができる、神奈川県独自のコミュニティ・スクールの仕組み。



はじめたきっかけは？

本校は令和元年度より、文部科学省の事業であり、神奈川県が事業推進している、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に採択、指定され、先進的な理数教育を実施し、理数系人材の育成に取り組んでいます。

令和3年度、指定3年目の中間評価を受けた教育活動を行う中で、生徒の研究活動をより深めるため、研究テーマに即した大学の研究室や研究機関を訪問したり、大学教員や大学院生等とディスカッションをしたりする機会を多く設定することとし、高校と大学等との連携・接続を模索しはじめました。

そこで、令和4年度の学校運営協議会で話題としたところ、委員であり、高大連携部会のメンバーでもある地域関係者から、青山学院大学の学部長（当時）をご紹介いただくことができ、SSH指定校としての学校設置科目、「SS課題探究」の中で大学の研究室と接続し、研究を進める計画を立てました。

そして、令和5年度から取組を開始し、高大連携部会の協力・支援を受けつつ、他大学等にも拡げるなど、現在も継続して活動しています。

神奈川県教育委員会教育局指導部
高校教育課高校教育企画グループ

この冊子はホームページにも記載しています →



すくコミ!

～コミュニティ・スクール事例集～



学校名

相模原高等学校

活動名

SSHの取組支援
～高大連携部会～

取組紹介

取組内容

| 内 容 | |
|-----|------------------|
| 1 | SSH指定校として教育活動の検討 |
| 2 | 学校運営協議会での熟議 |
| 3 | 高大接続事業の開始 |
| 4 | 成果と今後の展望 |

1 HOP

令和3年度

SSH指定校としての中間評価を受け、研究テーマに即した大学の研究室や研究機関を訪問し、その施設等を利用して実験を行ったり、大学教員や大学院生等とディスカッションをしたりする機会を多く設定した。精度の高い実験データの収集に努め、質の高い研究成果を目ざすこととした。

2 STEP

令和4年度

第一回学校運営協議会の際、SSHの取組状況を説明したところ、高大連携部会の委員より青山学院大学との高大接続について話題提供があり、学部長(当時)をご紹介いただくことができた。その後、他大学とも話が進み、11月より2校の大学との打ち合わせを重ね、次年度からSSH課題探究Ⅱのアドバンストコースにおいて、5つの研究室と接続して研究を進めていく計画を立てた。

3 JUMP

令和5年度

年度当初、5月に生徒が各大学の研究室を訪問し、生徒が現在取り組んでいる研究の内容と現状を説明した。研究室の先生から助言を受けて年間計画を整理し、直近の課題と全体の見通しを立てた。事業の初年度として、接続先の研究室の先生方と本校教員・生徒とで連絡を取り、効果的な接続方法を模索しながら年間を通して活動した。その結果、10回以上の研究室訪問またはオンラインによる指導や勉強会を実施することができた。研究室の先生方は、生徒たちの様子を見ながら、その段階ごとに最適な指導を考え、提案していただき、それにより生徒たちも意欲的に取り組む様子が見られた。

4

FLY

「SS課題探究Ⅱ」実施後の生徒アンケート結果によると、アドバンストコースを選択した生徒たちは、知識や学力の向上、探究力の向上、コミュニケーション能力の向上などに与える影響が他のコースの生徒よりもより大きかったことが読み取れた。このように、大学研究室との接続によって、科学的探究力の育成への有益性を感じていることから、今後もこの取組を拡げていきたい。

生徒の感想

- ▶一番の利点は大学院生の方と常に会話が出来ていた所。足りない点を客観的に教えて貰え、新しい視点や改善点などをアドバイスしてもらえた。
- ▶大学の先生と繋がるのが初めての経験だったので、まったく気づけなかった視点を知ることができたのがとても良かった。
- ▶後半になってやる事が多く余裕がなくなってしまい、計画をもっと綿密に立てておけば良かったと反省。



先生の思い

「SS課題探究」でより深化した研究を進めて、理数系人材を育てていきたい!